

土木遺産の利活用に向けた 地域の記憶の共有化に関する試み

羽 野 暁¹

¹第一工業大学 講師 自然環境工学科 (〒899-4395 鹿児島県霧島市国分中央1-10-2)
E-mail: s-hano@daiichi-koudai.ac.jp

An Experimental Study of Sharing Community Memories for Utilization of Local Civil Engineering Heritage

Satoshi HANO¹

¹Lecturer, Dept. of Civil and Environmental Engineering, Daiichi Univ. Institute of Technology
(Kokubu-Chuo 1-10-2, Kirishima-shi, Kagoshima-ken 899-4395, Japan)
E-mail: s-hano@daiichi-koudai.ac.jp

Abstract : Historic reinforced concrete bridges, constructed in Taisho and early Showa periods, have characteristic decorative shapes can become the core of regional revitalization. In this paper, we report on the local history of Yamada-bashi bridge which is historic RC-bridge constructed in 1929 using oral-history method, and report on the demonstration of picture-story show "KAMISHIBAI story" of community histories with Yamada-bashi bridge. We got the knowledge of the local history of this bridge, and confirmed efficacy of the demonstration of KAMISHIBAI story as a method for sharing community memories with local civil engineering heritage. We described the effect of this way as an intergenerational communication.

Key Words : KAMISHIBAI story, picture-story show, oral history, local heritage, historic bridge, concrete bridge, art deco, bridge aesthetics, community, regional revitalization, cultural landscape

1. はじめに

地域で過疎高齢化が進む中、住民が豊かさを実感し誇りを持てる地方の創生が求められている。特に過疎高齢化が顕著な農山村地域では、自治体財政力の低下に伴う公的サービスの画一化や地域コミュニティの弱体化により、地域らしさを有する風景の崩壊が進んでいる。

土木学会では歴史的土木構造物を選奨土木遺産に認定し、まちづくりへの活用を促している。大正～昭和初期に建設され地域の近代化を担った鉄筋コンクリート橋は、技術的・文化的価値の高い土木遺産であり地域の活性化に資する貴重な地域遺産であるが、その価値認識は未だ乏しく、都市化とともに現在各地で架け替え撤去が進められている。都市化が

遅れた農山村地域にわずかに残るこれらの地域橋梁を活性化の核に据えて、当該コミュニティの結びつきの強化や風景のアイデンティティの確立を図ることは、過疎高齢化が進む地域において地方創生の一助となるであろう。その手法のひとつとして、土木遺産を中心とした地域の記憶の共有化を試みた。土木遺産を中心とした地域の生活風景や歴史に関する情報の収集と、同情報を地域コミュニティにおいて世代を越えて共有する場の創出を試みた。

本稿は、鹿児島県の農山村地域に残る地域橋梁のひとつである山田橋を対象として、オーラル・ヒストリー調査により得られた生活風景や歴史情報をもとに子どもに分かりやすい歴史紙芝居を制作し、地域の小学校において世代間交流の場として実施した紙芝居の実演会について報告するものである。

2. 山田橋及び周辺地域の概要

本研究で対象とする土木施設は、鹿児島県姶良郡姶良町下名、県道下手山田帖佐線の山田川交差位置に残る山田橋である。山田橋(写真-1)は、1929(昭和4)年に竣工した橋長60.5m、幅員5.8m、6連の鉄筋コンクリート連続T桁橋である。山田橋は竣工から86年が経過し、周辺施設とともに地域の歴史と風景をつくり出している土木遺産である。山田橋の親柱・高欄・橋脚・桁持ち送り等には、大正～昭和初期の橋梁に多く見られるアール・デコ調の意匠が施されている。橋脚は二連アーチの箱抜き形状と曲線的な水切り形状を有し、高欄もアーチ形状の箱抜きが連続する意匠となっており、全体的に曲線を基調とした意匠で統一されている。図-1に親柱・高欄の実測図を示す。

山田橋の周辺には、日露戦争従軍者の帰還を記念して建設された石造りの山田の凱旋門(明治39年建設、国登録有形民俗文化財)や、西郷隆盛が西南戦争敗走時に座ったとされる西郷どんの腰掛石(町指定史跡)、豊穣を祈って祀られた石像である西田の



田の神様 (町指定民俗文化財)など多くの史跡がある(図-2)。山田橋はこれらの周辺施設とともに地域の歴史と風景をつくり出している。農村風景の中で、威風堂々とした佇まいの本橋は、地域住民の記憶に強く残る橋梁である。

山田橋 親柱・高欄サーベイ記録図／昭和4年竣工 鹿児島県姶良郡

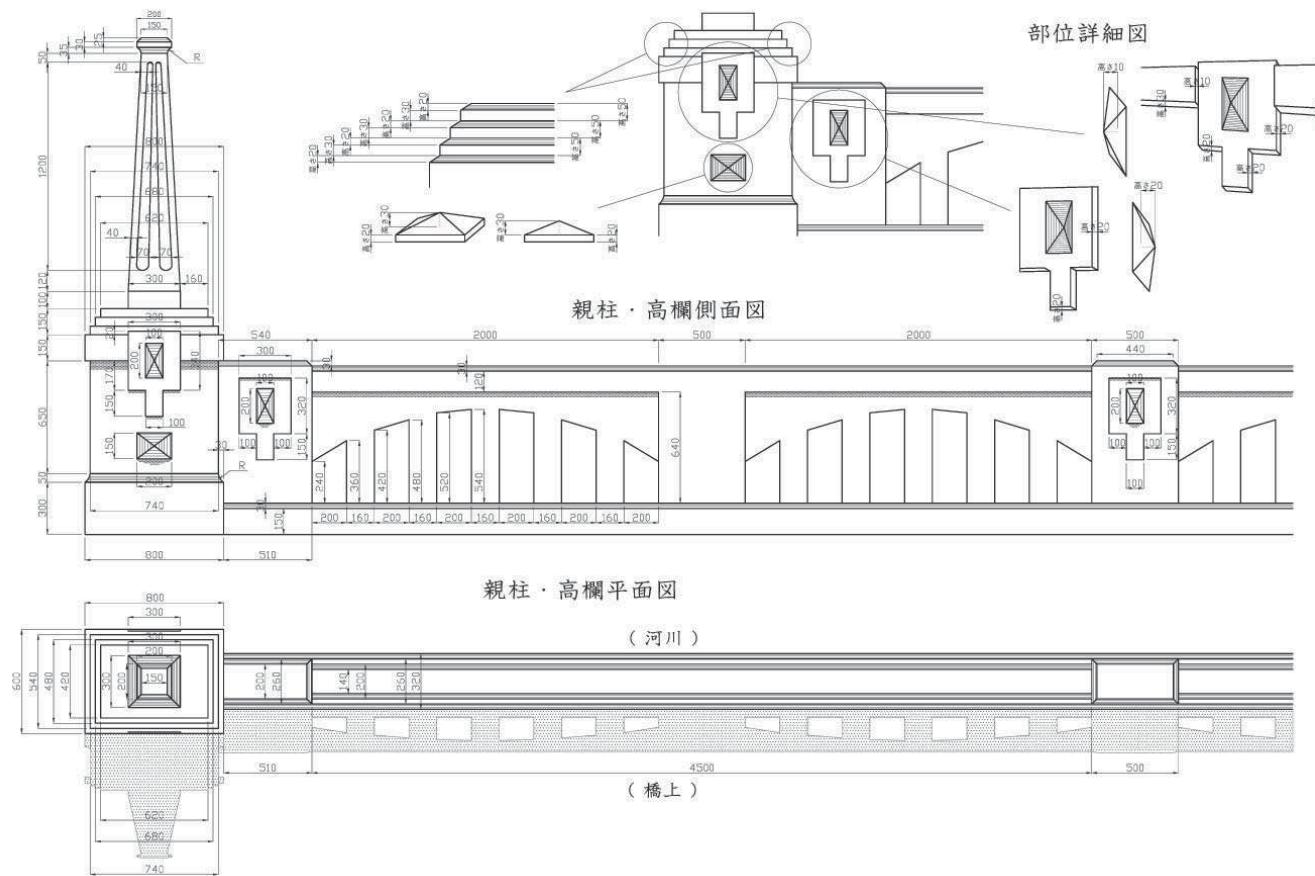


図-1 山田橋の親柱・高欄サーベイ記録図

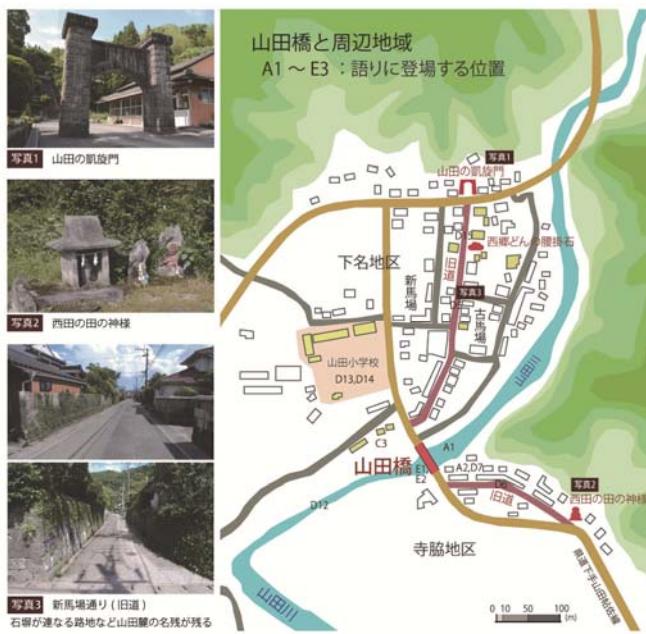


図-2 山田橋と周辺地域

3. 山田橋に関するオーラル・ヒストリー調査

平成 26~27 年度にかけて、山田橋を対象とし、文献調査及び橋梁周辺地域でのオーラル・ヒストリー調査を実施した。ヒアリング調査により歴史的口述資料を収集するオーラル・ヒストリーの手法を用いて、山田橋の建設経緯や竣工状況、山田橋を中心とした生活史などの口述史を整理することができた。ヒアリング対象者は、山田地域の 80~90 歳代の古老を中心とし、山田橋の橋詰や山田地域の街路上など記憶の鮮明化が期待できる場所で、対面インタビューにより実施した。事前の既往文献調査により収集した山田橋や周辺地域の古い写真や記述を見せながらヒアリングを実施することで、ヒアリング対象者の記憶の鮮明化を図った。収集した山田橋に関する地域住民の語りをテキスト文章に書き起こし、内容を A：先代の木橋、B：現橋の建設経緯、C：建設工事の状況、D：竣工後の山田橋と山田地域、E：戦時中の 5 項目に分類し整理した。**表-1** にオーラル・ヒストリー調査結果をとりまとめ、**図-2** に語りに登場する位置を示す。ヒアリング調査内容と既往文献調査内容を照合することで、より具体的に当時の状況が整理できた。本調査により、山田橋の建設に尽力した瀬戸山良敏氏の思想や、帖佐松原の塩田業に従事できなかつた女性が基礎の締固め工事に出稼ぎに来ていたこと（いわゆるヨイトマケ労働者）、山田橋の橋灯の照明は電気灯であったこと、帖佐から山田橋を見学に訪れる者がおり、後に同形状の橋灯を有する帖佐橋が建設されたこと、山田小学校では山田橋のアーチを真似て組体操でブリッジ

をしていたこと等、既往の文献調査では得られない貴重な地域の歴史情報が得られた。山田橋のように文献資料に乏しい近代の地域橋梁に対して、本研究のような口述資料の収集による歴史情報の把握は有効であり、また、地域の日常生活の中にある地域固有の歴史・文化・習慣に関する情報の蓄積は、地域らしい風景づくりの大きな助けとなる。

表-1 山田橋に関するオーラル・ヒストリー

4. 山田橋の歴史紙芝居の制作

前章のオーラル・ヒストリー調査により得られた山田橋と山田地域に関する歴史情報をもとに、山田橋の歴史紙芝居を制作した。制作した歴史紙芝居は、今回企画した山田小学校での紙芝居実演会において実演披露し、地域の高齢者と子供が地域の土木遺産に関する歴史や記憶を共有する世代間交流の場の創出を試みた。

(1) ラフストーリーと場面割り

オーラル・ヒストリー調査によって得た歴史情報をもとに、山田橋を舞台として、1. 山田橋の紹介、2. 登場人物の紹介、3. 山田橋を中心とした地域の当時のぎやかな生活風景、4. 山田橋の建設経緯と施工時の苦労、5. 地域の施設と山田橋の関係、6. 戦時中の悲しい記憶と戦後の楽しい記憶が伝わるラフストーリーを作成し、全 15 枚の紙芝居シートの場面割りを実施した。

(2) 登場人物のキャラクター設定

主人公は、紙芝居実演会に参加する小学生が感情移入しやすいよう、同地域の小学校に通う小学生とした。山田橋架橋位置の地名(下名地区)から、名前を下名豊君とした。主人公に山田橋と山田地域の歴史を紹介する人物として歴史爺さんを設定し、さらに、山田橋への愛着の醸成を期待して、自らの思い出を語る、山田橋を擬人化した山田橋君を設定した。

(3) 紙芝居シートの作成

下書き絵をもとに wacom 社製ペンタブレット「Intuos comic」を使用して場面シートのデジタルデータを作成した。シートのデザインは建設当時の時代気分が伝わるよう大正ロマン・昭和モダンの雰囲気を想起させる色合いや画風とした。以下に各シートと台本を示す。凡例は、ナ)ナレーション、豊)下名豊君、爺)歴史爺さん、山)山田橋君である。

場面シート① 表紙



山田橋と時代の旅（やまだばし と ときのたび）

場面シート② 物語の対象地の紹介



ナ) 鹿児島県姶良市の山のふもとには、下名という山田川が流れる自然豊かで、のどかな町がありました。

場面シート③ 主人公の紹介



ナ) その町には、「下名豊君」という山田橋の近くに住む男の子がありました。山田橋は、町の人によく使われている橋で、豊君も山田小学校に通学するときや、遊びに行く時に、よく山田橋を使っていました。

場面シート④ 歴史爺さんの登場



ナ) ある日、学校が終わり下校していると、山田橋の前でポツンと立って、山田橋の親柱をみつめているお爺さんがいました。少し不思議に思った豊君は、話しかけてみることにしました。
豊) 「おじいさん、なにをしているんですか？」
爺) 「いやあ～、この橋をみていると、昔のことを思い出してなあ～」
豊) 「昔のこと？」

場面シート⑤ 先代の木橋



爺) 「そうじゃ、昔、このコンクリートの山田橋ができる前に、この川を少し上った所に木でできた山田橋があつての～。じゃが、よく洪水で流されてしまって、壊されてしまって、毎回多くの人が困っていたんじや。それで、86年前に、このコンクリートの山田橋を造つたんじや」

ナ) と、お爺さんが山田橋のことを教えてくれました。

山) 「やあ！」

ナ) 豊君がお爺さんのお話しを聞いていると、どこからか声が聞こえてきました。豊君が声のした方向を見てみると・・・

場面シート⑥ 山田橋君の登場



豊) 「えーっ！！ なんだあ～！？」

ナ) なんということでしょう。山田橋の親柱が、豊君に話しかけてきました！

爺) 「うん、そうじゃな、この子は山田橋君じゃよ」

ナ) お爺さんが山田橋君を紹介してくれました。

豊) 「あ、そなんだ！ こんにちは！」

ナ) 豊君は、少しビックリしましたが、いつも通っている山田橋なので親しみがあり、山田橋君が話しかけてくれたことが、だんだんと嬉しくなりました。

山) 「豊君、こんにちは！ 一緒に、僕ができるまでを振り返ってみないかい？」

豊) 「うん、わかった！！」

場面シート⑦ 当時の山田橋と地域の風景



ナ) 豊君の喜んだ顔をみて、山田橋君は嬉しそうに話しました。
山) 「昔、下名地区は旅人たちの宿として、とても賑やかな所で、90年前には既に電気も通っていたんだよ」
爺) 「ものを使ふために、荷車や高等馬車も多くこの橋を使っていましたんじや」
ナ) お爺さんも懐かしそうに教えてくれました
豊) 「へえ～。そなんだあ」
山) 「僕は昔、木だったころ、洪水でケガをしてしまって、みんなは僕を渡ることができなくなってしまったんだ」
爺) 「昔から山田橋君はとても重要な橋で、田舎から歩いて市内に出る人にとって、大きな役割りを担っていたんじや。山田橋君を通れない、色々な物や人の行き来が出来なくて、皆とても困っていたんじや」
豊) 「多くの人が使う橋だったんだね」

場面シート⑧ 山田橋の建設経緯



山) 「だから、下名地区の人々が、皆で相談して早く僕を直してあげようと、当時の県議会議員の瀬戸山良敏さんに頼んだんだ。すると、良敏さんは鹿児島県一の橋を造ろうと頑張ってくれたんだ」

爺) 「橋の上には街灯が付いていて、夜はとても綺麗な橋だったんじや」

豊) 「重要な橋だから、立派なものをみんなで造ろうとしたんだね」

山) 「そこで僕を造るために、桜島から白川さんという方を親方として呼ばれて、工事をしたんだ」

豊) 「えー桜島から來てくれたんだ」

爺) 「じゃが、白川さんは始良には疎くて、原口さんの製材所が工事で使う木材を調達したんじや」

豊) 「地元の人も協力して造ったんだね」

場面シート⑨ 山田橋の建設工事の状況



山) 「工事中はとても多くの人が僕を造るために頑張ってくれたんだ」

爺) 「そうじゃったの～。工事現場には松原からの女性の出稼ぎ労働者が大活躍していたんじや。あの頃、松原は塩田が有名じゃったが、塩田で働く人が山田橋のために働きに来てくれたんじや」

豊) 「山田橋君を造るために多くのひとが協力してくれたんだね」

場面シート⑩ 山田橋の竣工時の様子



山) 「皆のおかげで、1年間をかけて、昭和4年にコンクリートの橋が完成したんだ。もう86年前だよ」

爺) 「立派な橋が出来たから、多くの人が見学しに来てる～。長く使われることを願って行われた渡り初め式では、親子三代のおじいちゃん、お父さん、お孫さん3人で渡ったんじゃ」

豊) 「皆が完成を喜んだんだね」

ナ) 豊君は、いつも通っている山田橋君が、多くのひとの願いと協力で造られたことを、誇らしく思いました。

ナ) ところが、急に二人が悲しそうな顔で言いました。

爺) 「じゃがの、戦争の時は大変での、この山田橋君を狙った空襲があつたり、街灯や名板も戦争のためと取られてしまつての、じゃが、山田橋君が残ってくれて本当に良かったの」

山) 「あの時は、本当に怖かったよー」

ナ) 二人はつらいことを思い出したようでした。でもお爺さんは胸を張り、言いました。

場面シート⑬ 戦後の山田地域の様子

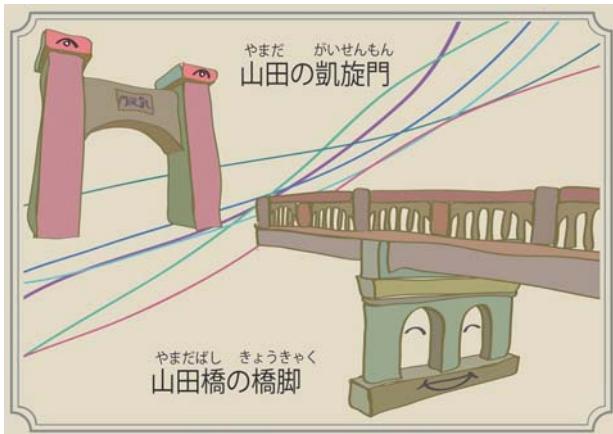


爺) 「戦争の時は大変じゃったが、地区の皆が頑張ってくれての、時間がかかったがまた昔のような町に戻ることが出来たんじゃ。あの時は山田橋から凱旋門に続く道が賑やかで、西郷さんの腰掛石あたりでは、十五夜の夜に綱引き大会をしていたんじゃ。多くの観光客も来て、盛り上がったんじゃ」

爺) 「山田川の近くの広場では運動会なんかもしたりしての。山田橋君を真似た組体操のブリッジがよかったです！」

爺) 「昔は、このあたりにもバスが通っていてな、原口さんのおうちの近くにバス停があったんじゃぞ」

場面シート⑪ 山田橋の完成後の風景



爺) 「そうなんじゃ。いろいろな人の想いや願いがこの山田橋君にはこもっているんじゃ。橋脚のアーチは、あの凱旋門を意識していると言われているんじゃ。この橋は下名地区の発展を願って、皆が努力して造ったんじゃ」

爺) 「そのおかげで、この下名地区は旅人たちの旅館も繁盛し、その他にも酒屋や豆腐屋、下駄屋、駄菓子屋もあって、とても栄えたんじゃぞ」

ナ) と、お爺さんは自慢げに話してくれました。

場面シート⑭ 結び



豊) 「へえ～。山田橋君や下名地区にはとても長い歴史があったんだね！」

爺) 「そうじゃな。この町の人やひとつひとつの物に歴史があるんじゃ。その歴史を知るのはとても大切な事じゃな」

山) 「これからは、豊君たちがこの下名地区の歴史を作っていく番だね。僕もこれからもみんなの頑張りを見守って、応援していくからね」

豊) 「うん、ありがとう！今日は色々なことが知れてよかったです。昔の人に負けないくらいに僕も頑張るよ！山田橋君、おじいさん、色々教えてくれてありがとう。じゃ、またね。ばいば～い」

ナ) 豊君は、ふたりの話を聞いて山田橋君と下名地区の歴史を知ることが出来て、なんだかこの町が少し好きになりました。

場面シート⑫ 戦時中の山田橋の様子



場面シート⑮



ナ) お・し・ま・い。

5. 山田橋の歴史紙芝居実演会

紙芝居実演会は、山田橋に近接し、同橋が小学生の登下校の通学路になっている姶良市立山田小学校の体育館にて実施した（図-2）。山田小学校は1886年（明治19年）に山田尋常高等小学校として始まり、山田橋とともに地域の歴史をつくる小学校である。紙芝居実演会は姶良市教育委員会の後援を得て、山田小学校の生徒、保護者、地区の自治会に案内し、当日の参加者は山田小学校の全校生徒66名の他、保護者、学校教員、地域のお年寄り、姶良市観光ボランティア、姶良市職員など100名を超えた。紙芝居の実演はA1サイズの光沢紙にプリントした紙芝居シートを使用して実施し、紙芝居シート



写真-2 山田橋の歴史紙芝居実演会（山田小学校）

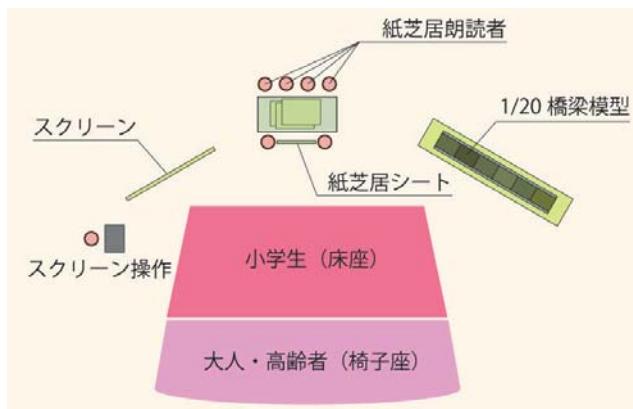


図-3 山田橋歴史紙芝居実演会の会場レイアウト

のデジタルデータをプロジェクターでスクリーンに投影しながら実施した（写真-2、図-3）。

実演会終了後に、実演会に参加した山田小学校の生徒66名を対象として、山田橋の歴史に対する理解度、愛着心の向上についてアンケート調査を実施した。63名から回答を得て、9割程度の参加生徒が山田橋の歴史が分かり山田橋が好きになったと回答した（図-4）。実演会には地域の多くのお年寄りが参加したことからも、地域の高齢者と子供が地域の土木遺産の歴史や記憶を共有する世代間交流の場として、歴史紙芝居の実演会が有効であることが推察された。また、同紙芝居の実演は地域の土木遺産に対する愛着の醸成にも効果的であると考えられる。

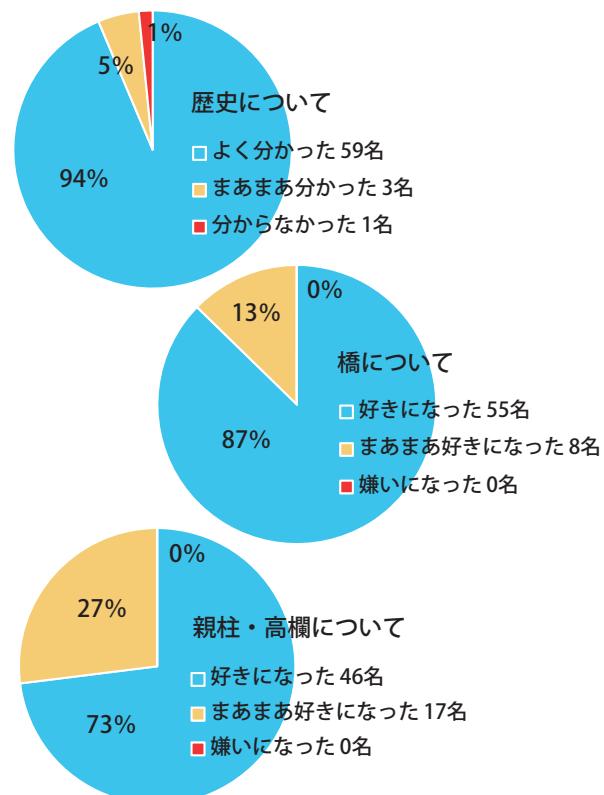


図-4 山田橋歴史紙芝居実演会後のアンケート調査

山田橋の歴史紙芝居実演会の様子は、南日本新聞社の取材を受け、2015年12月8日付け朝刊に記事が掲載された。記事の掲載を受けて、姶良市内のスーパー・マーケットの入口に同記事の切り抜きが掲示される等、地域の反応もみられた。今回のような取組みを経て、地域の貴重な土木遺産である山田橋に対する地域住民の価値の再認識や保存・利活用の気運が高まるることを期待したい。

6. まとめ

本研究で対象とした山田橋のように、大正～昭和初期に地域の近代化を担った地域橋梁は、文化的かつ技術的価値の高い土木遺産であり、保存・利活用を通して地域活性化に資する貴重な地域資産であると言える。地域橋梁が現存する地域は、過疎高齢化が進む地域と重なる。都市化が遅れた農山村地域にわずかに残るこれらの地域橋梁を保存・利活用することは、地域の活性化に向けて有効な手段であると考える。

本研究は、平成26～27年度の2箇年をかけ、鹿児島県姶良郡に現存する昭和4年竣工の地域橋梁である山田橋を対象として、オーラル・ヒストリー法に基づき同橋および周辺地域の歴史情報を収集し、その成果を歴史紙芝居の実演により地域に還元することで、地域の土木遺産を利活用した地域コミュニティの活性化を試みたものである。

山田橋の歴史紙芝居実演会は、姶良市教育委員会の協力を得て、山田橋に近接する姶良市立山田小学校にて実施した。歴史紙芝居の実演会は、過疎高齢化が進む同地域において、子どもと大人、高齢者が地域の記憶を共有する大変貴重な場となった。この取組みにより、オーラル・ヒストリー調査に基づく歴史紙芝居の実演が、過疎高齢化地域における世代間交流の場の創出に有効であることが分かった。

今回対象とした山田橋をはじめ、大正～昭和初期に建設され地域の近代化を担った鉄筋コンクリート橋は貴重な地域の土木遺産であるが、その価値認識は未だ乏しく現在各地で架け替え撤去が進められている。今回、山田橋を中心とした地域の生活風景や歴史情報の収集に基づく紙芝居の実演が、地域コミュニティにおいて世代を越えて地域の記憶を共有する世代間交流の場として効果的であることが分かった。この試みは、地域橋梁に限らず地域に現存する多くの土木遺産においても、過疎高齢化が進む地域の活性化に貢献できる潜在力を有することを示唆している。歴史紙芝居の実演に限らず、地域の土木遺産を利活用することで、同様の世代間交流の場を創

出できるであろう。今後は地域に残るこれらの地域土木遺産を対象として、世代間交流の場の創出を通して、その効果を検証したい。地域の土木遺産を活性化の核に据えて、当該地域コミュニティの結びつきの強化や地域風景のアイデンティティの確立を図ることは、過疎高齢化が進む地方の創生の一助になるであろうと期待できる。

付録

参考文献

- 1) 山田村教育会：鹿児島県姶良郡山田村郷土誌、姶良市歴史民俗資料館、昭和6年
- 2) 松山雅雄：姶良地方の研究 郷土研究号二、鹿児島県女子師範学校、昭和10年
- 3) 鹿児島県：鹿児島県史、昭和14年
- 4) 姶良町郷土誌編纂委員会：姶良町郷土誌、姶良町、昭和43年
- 5) 芳即正：ふるさとの想い出写真集 明治・大正・昭和 鹿児島、佐藤今朝夫、昭和55年
- 6) 姶良町歴史民俗資料館：写真に見る姶良町の今昔、姶良町、平成4年
- 7) 小野郁子、甲斐保之他：目で見る国分・姶良の100年、神津良子、平成16年
- 8) 安田孝治、大脇直他：写真アルバム 霧島・姶良・伊佐の昭和、山田恭幹、平成26年
- 9) 川原佑太、下優作、園田晃志郎、永吉勇輝、羽野暁：昭和初期コンクリート橋梁親柱・高欄の製作技術に関する調査研究、第一工業大学研究報告第26号、pp. 145-149、2014
- 10) 羽野暁：地域遺産オーラル・ヒストリー鹿児島県姶良郡の山田橋に関する調査報告一、第一工業大学研究報告第27号、pp. 23-26、2015
- 11) 羽野暁：福岡県における大正～昭和初期地域橋梁の親柱・高欄意匠特性、第一工業大学研究報告第27号、pp. 27-36、2015

謝辞

本研究は、鹿児島県建設技術センターより地域づくり助成事業として支援を賜りました。記して謝意を表します。